



テクノメタル 環境報告書 2025

TECHNO-METAL ENVIRONMENTAL REPORT 2025

目 次

ご挨拶	2
会社概要	3
環境マネジメント	4
地球温暖化防止	5
廃棄物の削減	7
有害物質の管理	8
事業活動の環境負荷	9
環境保全、地域社会及び社員との共生	10



テクノメタルは 循環共生型社会に 貢献できる企業に！

—Challenge the Impossible—



代表取締役社長

環境基本方針

当社は、天然資源やエネルギーを多く消費する企業であり、自然環境の保護・保全が地域環境はもとよりグローバルな重要課題であることを認識し、環境改善と地域との共生を推進します。

現在の日本経済を取り巻く環境は、雇用・所得環境の改善が続き、内需の柱である個人消費や設備投資が増加傾向で推移するなど、緩やかな回復が続いている。ただし、世界的な情報関連財需要の一服等の影響を受け、輸出が低下し、企業の生産活動の一部に弱さが続いている。海外経済の動きや不確実性には十分注意する必要があります。また、景気回復の長期化や少子高齢化もあり企業の人手不足感が大きく高まっており、技術革新や人材育成、投資等によって生産性を大幅に向上させ、賃上げや消費の喚起につながるような好循環を一層推進することが大きな課題であると考えます。

環境面では、「気候変動」、さらに「生物多様性の損失」、「汚染」という3つの世界的な危機に直面しています。世界気象機関(WMO)は、2024年が観測史上最も暑い年となり、世界の平均気温が工業化前と比べて約1.55°C上昇と初めて1.5°Cを超えたことを発表しました。あわせて国内では農産物の収量や品質の低下、熱中症のリスク増加など、気候変動の影響が全国各地で現れました。この複合的な環境危機を乗り越えるために、2024年5月に閣議決定された第六次環境基本計画で「循環共生型社会」の実現が掲げされました。

「環境」「経済」「社会」の統合的な向上に向け、「循環経済」、「自然再興」、「炭素中立」といったものに横断的に取り組んでいく、シナジーアプローチを推進していく必要があるとしています。経済成長との両立を図るうえで、革新技術の開発・普及のためのイノベーションが不可欠であり、日本の産業技術の向上にもつながるものと考えます。

これらに対し、当社は全員で考え 努力・挑戦・改善を迅速におこない、目標実現に向け貢献していきます。

会社概要

社 名 テクノメタル株式会社

所 在 地 本社・二本松工場 福島県二本松市高田100番地

北本工場 埼玉県北本市古市場1丁目100番地

設 立 1971年5月20日

資 本 金 100百万円

株 主 合同会社ジェイ・ヴィ・オー、三菱重工エンジン＆ターボチャージャー株式会社

従業員数 613名(2025年12月1日現在)

事業内容 自動車・建設機械・産業機械用 各種鋳造、鍛造及びアルミダイカスト部品の
製造、販売 及び 機械加工、サブアッセンブリ

主要顧客

三菱ふそうトラック・バス株式会社	パーキンスジャパン合同会社	井関農機株式会社
三菱重工業株式会社	株式会社小松製作所	住金物産株式会社
三菱重工業エンジン＆ターボチャージャー株式会社	東京ファブリック工業株式会社	日産工機株式会社
三菱ロジスネクスト株式会社	UDトラックス株式会社	株式会社クボタ
日野自動車株式会社	アイシン高丘株式会社	ファンック株式会社
三菱自動車工業株式会社	浅井ショーワ株式会社	センクシア株式会社
カヤバ株式会社	日産自動車株式会社	

沿革

1970年06月	三菱重工業(株)から三菱自動車工業(株)が分離
1971年05月	三菱自動車工業(株)の全額出資により「東北三菱自動車部品(株)」として設立
1981年04月	東菱機工(株)を吸收合併し北本工場とする
1992年10月	社名を「三菱自動車テクノメタル(株)」と改称
2003年01月	三菱ふそうトラック・バス(株)が三菱自動車工業(株)から当社株式を継承
2003年03月	ISO14001(環境)認証を取得
2003年10月	社名を「三菱ふそうテクノメタル(株)」と改称
2004年06月	ISO9001(品質)認証を取得
2006年02月	旭テック(株)が筆頭株主となる。社名を「テクノメタル(株)」と改称
2007年05月	ISO/TS16949(品質-自動車)認証を取得
2007年08月	旭テック(株)が当社株式を100%取得
2015年06月	Amtek Auto社が当社株式を100%取得
2017年11月	テクノメタル(タイランド)社を子会社化 三菱重工エンジン＆ターボチャージャー(株)が当社株式の3.3%を取得
2018年05月	ISO/TS16949がIATF16949へ移行、認証取得
2022年03月	合同会社ジェイ・ヴィ・オーが当社株式の96.7%を取得

環境マネジメント

■環境管理 2024年度活動目標と実績

2024年度環境改善活動結果について、以下に示します。

エネルギー使用量削減は、目標をほぼ満足する結果が得られています。また、法令順守については、大気、水質、騒音等の規制値順守を含め適正であることを確認しました。

活動項目	目標	実績	評価	2025年度活動目標
1. 天然資源の有効活用 [1]エネルギーの有効活用 エネルギー使用量削減	2024年度エネルギー使用量計画の1%削減を目標に活動 ・二本松工場 476.0kℓ ・北本工場 16.0kℓ	・二本松工場 480.9kℓ ・北本工場 16.3kℓ	○	エネルギー原単位実績により得られる2025年のエネルギー使用計画量の1%低減を目標として活動
[2]荷主に係わる省エネ	目標≤28.20kℓ/百万トンキロ	28.39kℓ/百万トンキロ	△	≤29.20kℓ/百万トンキロ
2. ゼロエミッションの実現 埋立処分率低減 再資源化率向上	二本松工場 ・埋立処分率≤0.30% ・再資源化率≥98.50% 北本工場は維持管理	二本松工場 ・埋立 0.36% ・再資源 97.79%	○	二本松工場 ・埋立処分率≤0.30% ・再資源化率≥98.50%
3.環境改善 [1]法令順守	順守率100%	・法令違反なし ・排出規制値順守良好	○	順守率100% 法令改正確認の徹底
[2]公害未然予防	・粉じん飛散低減 ・油・濁水流出防止 ・騒音規制値の順守 ・大気汚染の防止	・CPM測定マニュアル作成 ・雨水ゲート修理 ・夜間騒音防止作業要領に従い確認継続 ・訓練計画に基づき初期消火訓練実施	○	・粉じん飛散低減 ・油・濁水流出防止 ・大気汚染の防止
4. 有害物質の 使用量低減	・化学製品のリスクアセスメント実施 ・有害化学物質含有資材の代替え推進	・新規化学物質リスクアセスメント実施 ・PRTR報告対象製品の代替え化	○	・化学製品のリスクアセスメント実施 ・有害化学物質含有資材の代替え推進
5. 環境配慮製品開発、 設備計画の実施	・環境に配慮した製品及び生産工程の構築	・製造工程設計時の環境配慮折込 ・設備等計画、工事施工時の環境影響評価を実施し、著しい影響項目なし	○	・環境に配慮した製品及び生産工程の構築
6. 社会貢献、 地域社会との共生	・地域活動参加 ・工場周囲環境点検 ・地域活動への協賛 ・地域住民、社員家族対象イベント開催	・クリーンアップ作戦 ・剣道大会 ・外構点検 ・緑地・遊歩道開放	○	・社会貢献活動の計画と実施

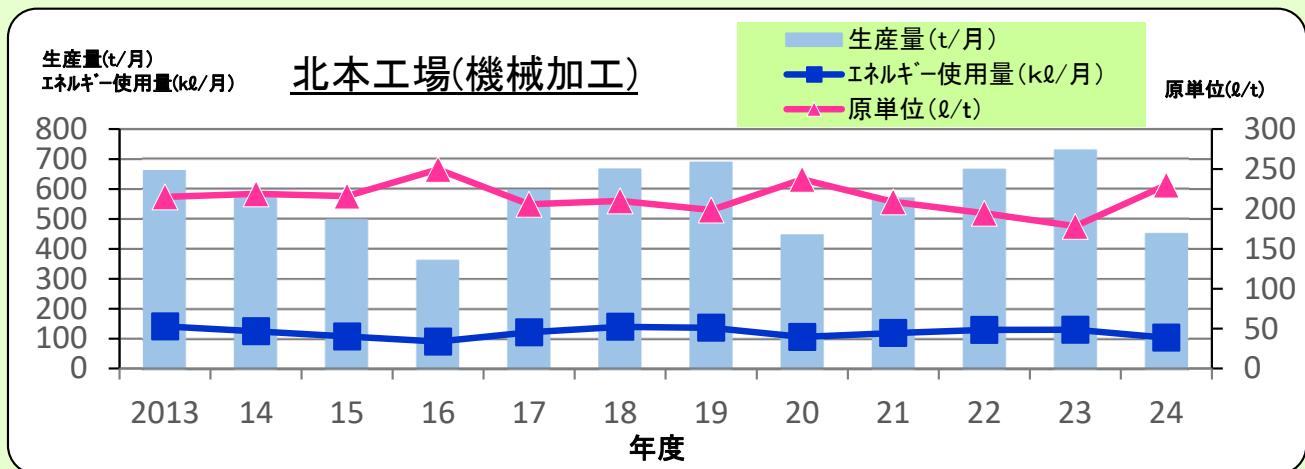
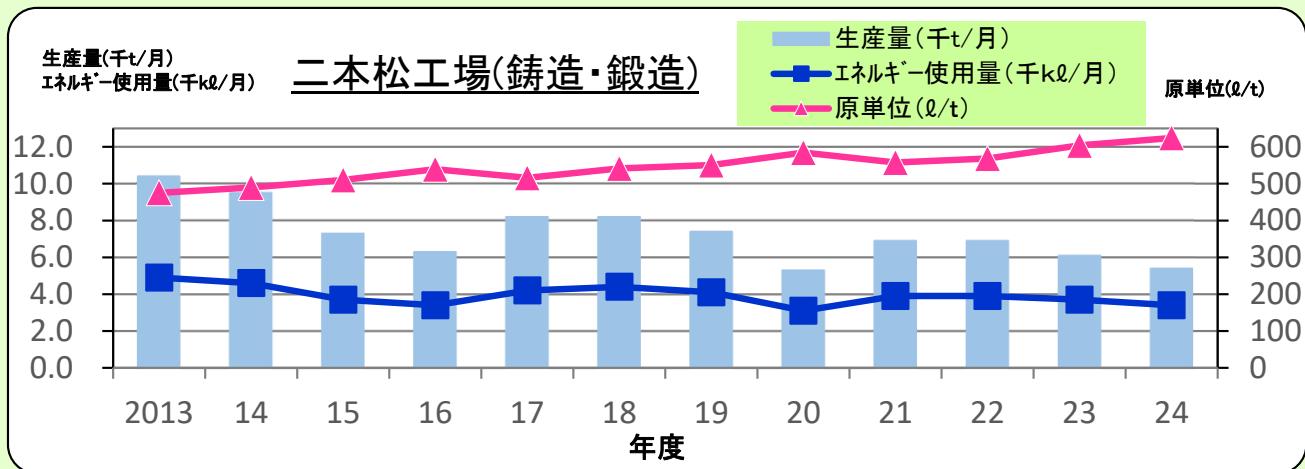
※ 弊社「環境目的・目標マネジメントプログラム」評価基準による



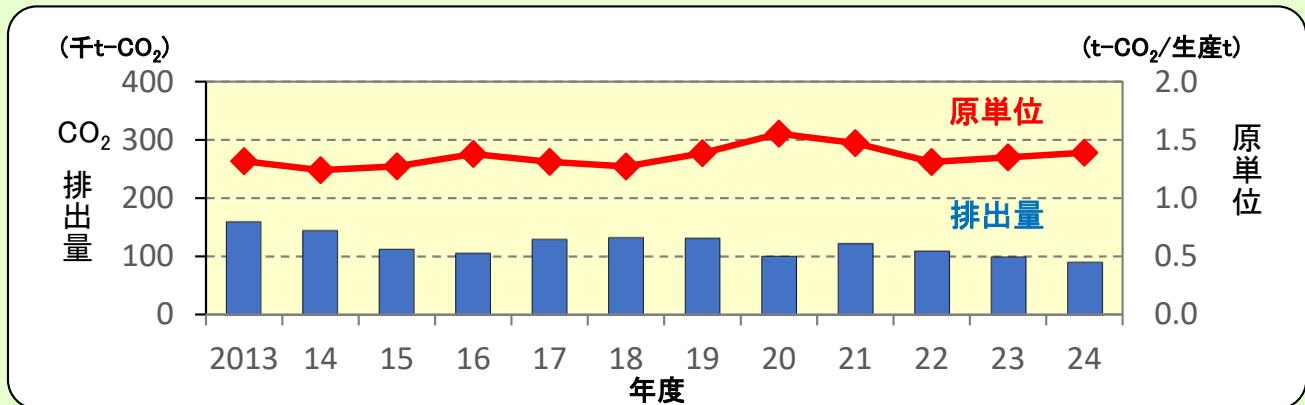
■ 省エネルギーの推進

当社は、鋳造、鍛造メーカーとして多くの電力や燃料を消費しており、また二本松工場では2017年以降、製品の付加価値を上げるために、加工を取込み事業を拡大しております。省エネ及びCO₂の排出抑制を環境改善活動の重要なテーマとして取組んでいます。

◆ エネルギー使用量、原単位の推移

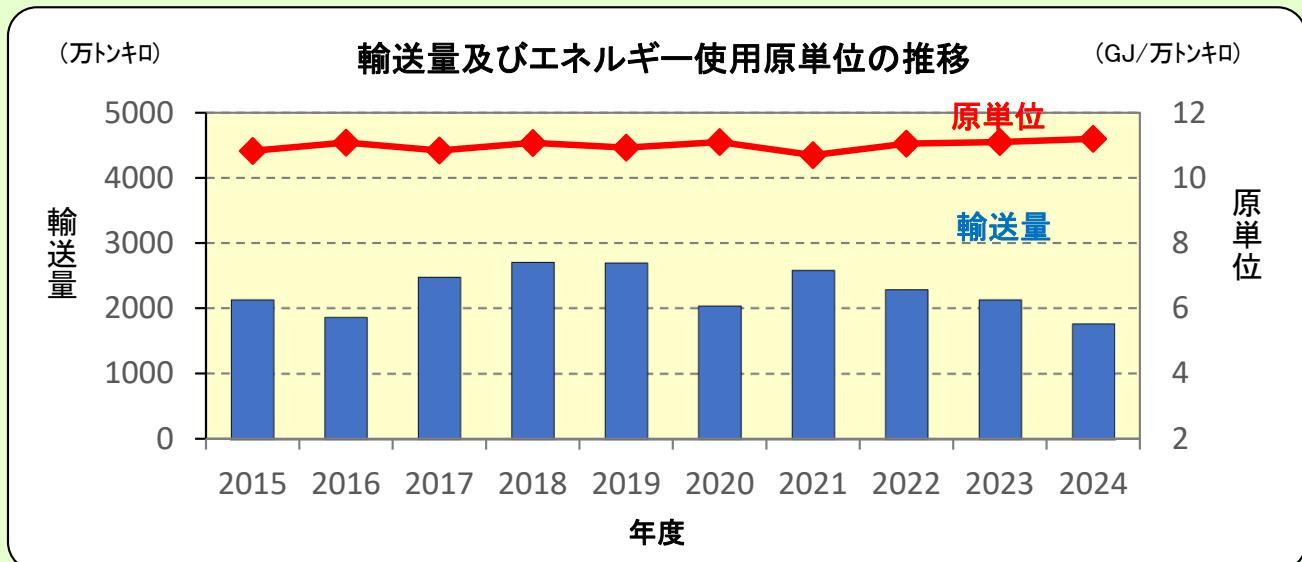


◆ CO₂排出量と原単位の推移



◆ 製品輸送等に関する省エネ活動

輸送業者及び顧客と連携して、直送化、加工付受注、アイドリングストップ活動、及びデジタコによる燃費管理推進等の活動を実施しています。



対象エネルギー：製品関係の輸送用燃料
産業廃棄物関係の輸送用燃料

◆ 省エネ活動の推進

毎年、2月は全国的に冬の省エネ月間となっており、また、8月は独自に夏の省エネ月間として、それぞれ職場ごとのエア漏れ点検や省エネ委員会による省エネ点検、また、省エネ講話を行うなど、省エネに関する意識の高揚を促進する活動を行っています。



啓蒙活動ポスター

廃棄物の削減

11 住み続けられる
まちづくりを



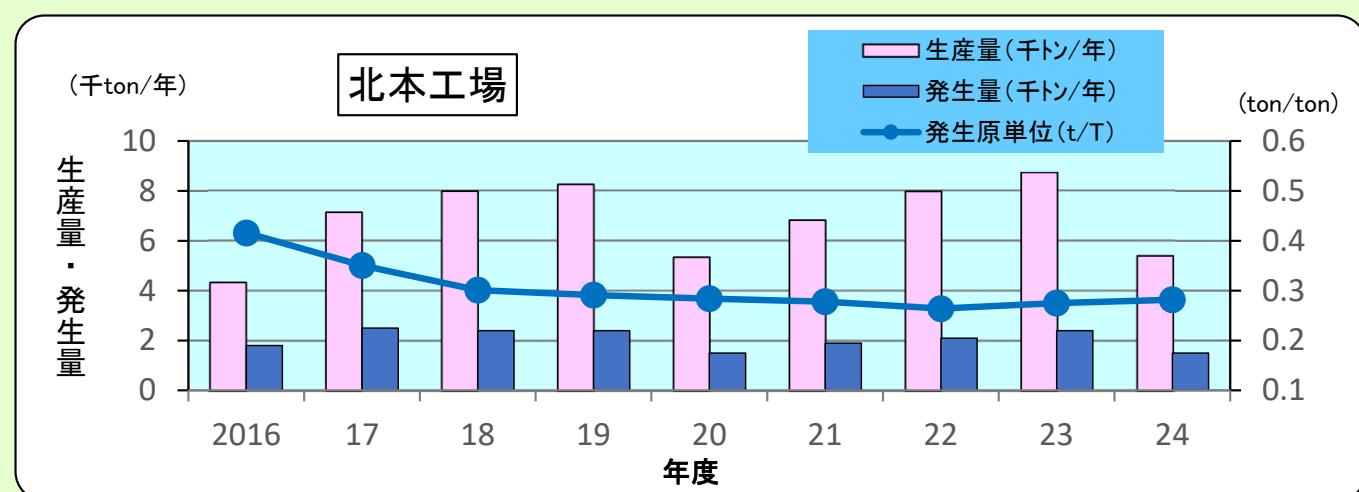
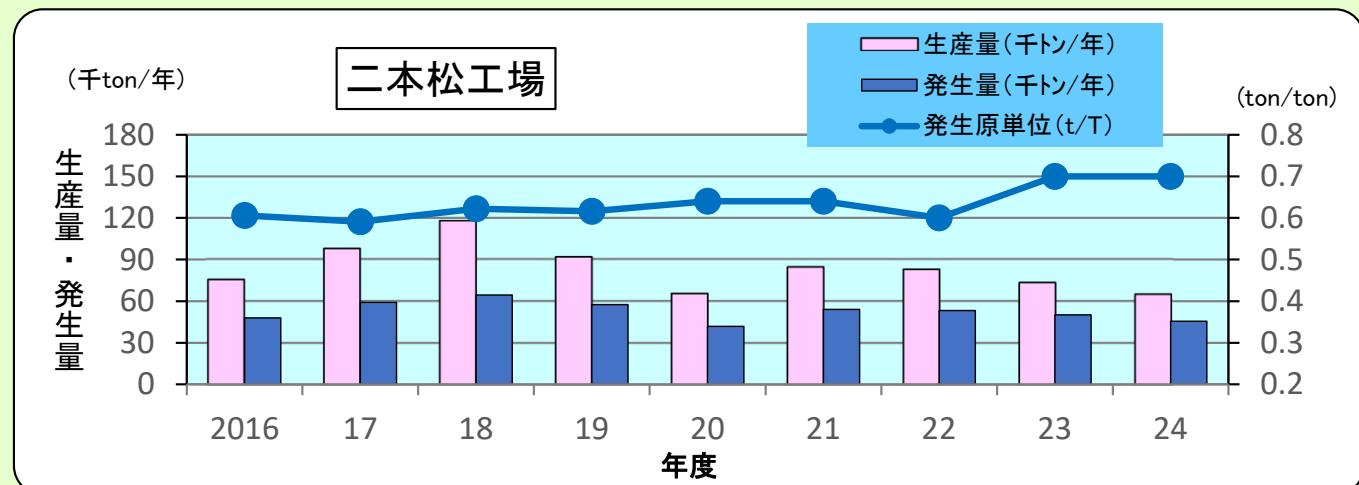
12 つくる責任
つかう責任



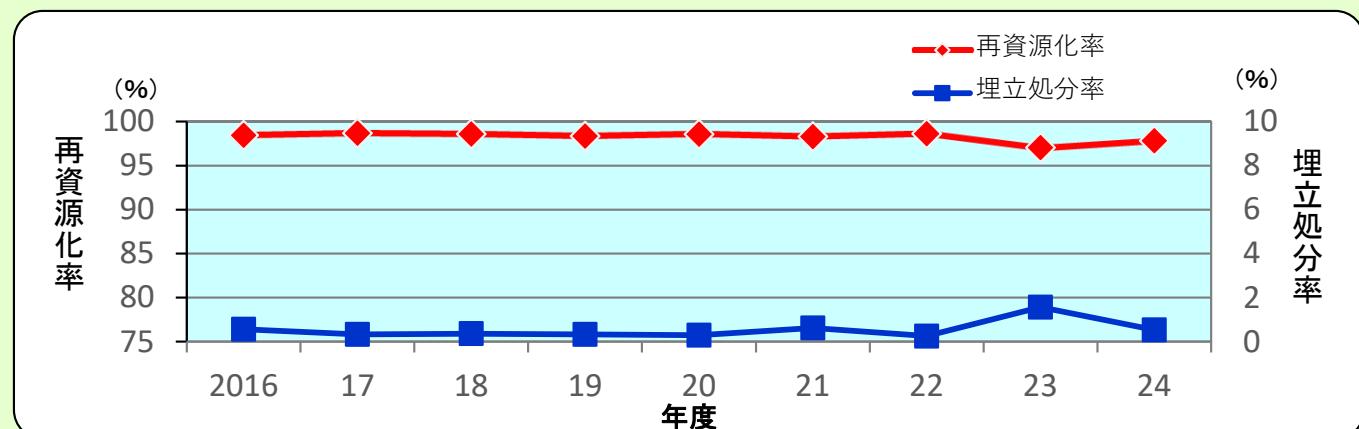
■廃棄物発生量の低減

生産活動ではさまざまな種類の廃棄物が発生します。当社では、廃棄物も貴重な資源と考え、廃棄物の再資源化利用や有価物化を目指す活動しています。具体的には、中子砂の再利用率の拡大や加工スラッジの再利用などに取り組んでいます。

◆生産量と廃棄物発生量の推移



◆再資源化率と埋立処分率の推移(二本松工場)





■PCB(ポリ塩化ビフェニルの管理)

二本松工場ではPCBを含む使用済みコンデンサー類を保管しており、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」及び「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」に定める基準により適切に処分、保管・管理をしています。現在使用中の物を含め、定められた期限内の処置を進めていきます。

◆ PCB保管状況

リアクトル	保存数量 使用設置数量	二本松工場 二本松工場	0台 3台
トランス	保管数量 使用設置数量	二本松工場 二本松工場	0台 3台

■PRTR

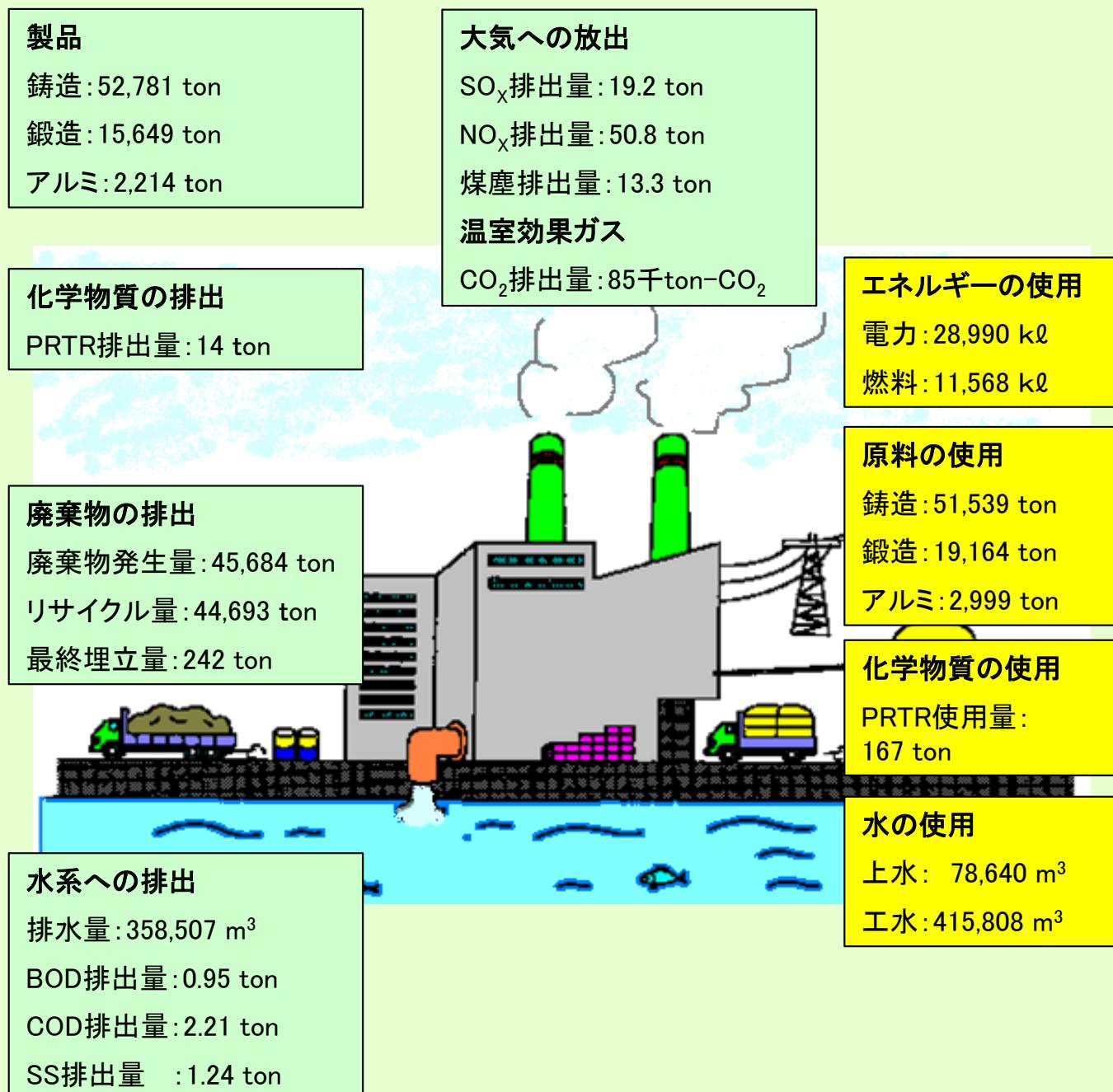
二本松、北本両工場は、PRTR法(特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法)並びに福島県及び埼玉県条例に基づく、指定化学物質の排出・移動量の報告義務を有する場合、それぞれがその結果を各県知事に報告、届出しています。

事業活動の環境負荷

■環境負荷の状況(二本松工場)

当社では、鋳造、鍛造事業の生産活動に使用される、エネルギーや原材料、水、化学製品等のインプットと、製造過程で発生する廃棄物や排水、化学物質の排出量等のアウトプットを定量化、管理し、環境負荷低減活動に活用しています。

以下に2024年度の環境負荷を示します。





■環境保全活動

環境保全委員会の活動を通して、環境改善・環境保全を継続的に進め、「環境にやさしい企業」を心掛けています。

◆構内緑化活動

二本松工場、北本工場ともに構内は多くの樹木が植えられ、目で四季を感じられます。2024年度には紫陽花を29本植栽しました。

◆環境月間行事

毎年6月の環境月間に合わせ、環境に対する意識高揚を図っています。

【環境月間行事】

- ・環境点検の実施
- ・周辺道路のクリーンアップ作戦の実施
- ・環境改善提案提出推進月間

◆工場周辺の環境整備

毎年2回、工場周辺の環境点検、ごみ拾いを行っています。また、草刈や樹木の剪定も定期的に行い、環境整備に努めています。



環境保全、地域社会及び社員との共生

■ステークホルダーとの交流・貢献活動

◆二本松工場北側緑地解放デー

二本松工場北側の緑地は、4月になるとソメイヨシノやシダレザクラ、レンギョウ、ハナモモなどが満開の花を咲かせます。草花が見頃を迎えるこの時季に、緑地広場や花見遊歩道を一般開放して、近隣住民の方々に楽しんでいただいています。



◆モノづくり体験デー

次世代育成支援の一環として、また家族のコミュニケーションを深めてもらうことを目的として開催しています。今年度はオリジナルスプーンを製作し、普段なかなかできない体験に子供達は眼を輝かせていました。



◆工場隣接道路のクリーンアップ活動

毎年2回、高田地区協議会と共同で、工場に隣接する道路の清掃ボランティア活動を行っています。今後も地域に貢献できるよう継続していきます。



環境保全、地域社会及び社員との共生

◆ 社会貢献



公園草刈・清掃活動



地域スポーツ行事への協賛及び後援



歳末助け合い募金



二本松提灯祭りへの協賛



二本松菊人形への協賛

テクノメタル株式会社

本社・二本松工場
北本工場

福島県二本松市高田100番地
埼玉県北本市古市場1丁目100番地